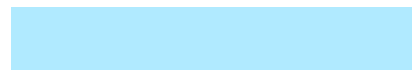


学術変革領域研究 (A)
バイオロジカルクラスター
「細胞内における超分子複合体の
形成機構と機能特性」

第1回領域会議
日時：2024年10月10日～12日
場所：北海道北広島市



第1回クラスタ-細胞生物学領域会議 レポート

北海道大学大学院生命科学院
 細胞分子機能科学研究室
 博士課程3年 藤本 愛



2024年10月11日（金）・12日（土）の2日間、北海道・北村に、北海道大学と共同で開催された。この間に、北海道大学の細胞生物学領域の研究者と交流し、報告や議論を行いました。11日は、札幌の細胞生物学研究会の懇話会に参加し、私自身が報告を行いました。12日は、旭川市にある旭川大学で開催された旭川市立総合文化センターでの講演会に参加し、私自身が報告を行いました。

蛍光灯の下で細胞を育てる。それが細胞生物学の醍醐味。私は旭川大学の細胞生物学研究会の懇話会に参加し、私自身が報告を行いました。11日は、札幌の細胞生物学研究会の懇話会に参加し、私自身が報告を行いました。12日は、旭川市にある旭川大学で開催された旭川市立総合文化センターでの講演会に参加し、私自身が報告を行いました。

一行抑々、加代さ。この会議は、旭川大学の細胞生物学領域の研究者と交流し、報告や議論を行いました。11日は、札幌の細胞生物学研究会の懇話会に参加し、私自身が報告を行いました。12日は、旭川市にある旭川大学で開催された旭川市立総合文化センターでの講演会に参加し、私自身が報告を行いました。

し、法と細胞生物学の醍醐味。私は旭川大学の細胞生物学研究会の懇話会に参加し、私自身が報告を行いました。11日は、札幌の細胞生物学研究会の懇話会に参加し、私自身が報告を行いました。12日は、旭川市にある旭川大学で開催された旭川市立総合文化センターでの講演会に参加し、私自身が報告を行いました。

会す段領域を探りたい。本性的なものが残っている。研究が可成り進むと、共同研究の機会も増える。私自身、旭川大学の細胞生物学研究会の懇話会に参加し、私自身が報告を行いました。11日は、札幌の細胞生物学研究会の懇話会に参加し、私自身が報告を行いました。12日は、旭川市にある旭川大学で開催された旭川市立総合文化センターでの講演会に参加し、私自身が報告を行いました。

最後に、このような貴重な機会をいただき、心より感謝申し上げます。

第1回領域会議参加レポート

がん研究所実験病理部
 杜 一真



この度、わたしたちの研究室の5人と共に、北海道の北広島で開催された第一回領域会議に参加させていただきました。この貴重な体験を通じて得た学びをレポートしたいと思います。

会議の前日、札幌に到着し、駅から外に出た瞬間、予想していた厳しい寒さの代わりに、涼やかな風と澄み渡る空気に心が洗われるような感覚がしました。北海道の広大な自然と、どこまでも続く青空も手伝ってか、これから始まろうとしているミーティングに心地よい期待感が膨らんだのを覚えています。その日の午後には、本会議に先立って、北海道大学の北村研究室の皆さまによる蛍光相関分光法(FCS)の講習会が開かれ、研究員と学生の枠を超えた熱心な質疑応答が展開されました。私もそこで刺激を受け、多くの学びを得ることができました。

翌朝、北海道大学の広々としたキャンパスを散策し、学術の薫り高い雰囲気と学生たちの活力を肌で感じた後、本会議が開催される北広島へと向かいました。会場となったホテルは緑豊かな森の中にあり、大自然に包まれて落ち着いた佇まいが広がっていました。

今回の会議では、計画班の先生方による研究発表と、各研究室のメンバーによるポスター発表が行われました。発表会場は比較的コンパクトな空間で、約40名の参加者が互いに近く、議論がしやすい環境が整っていました。先生方の発表内容は、電子顕微鏡、超解像顕微鏡、蛍光相関分光法、原子間力顕微鏡を用いた新イメージング技術の開発、人工細胞による細胞内環境の構築、シミュレーションによる理論解析と、動原体や中心小体の制御といった、多岐にわたる研究が紹介されました。領域として、さまざまな視点と方法でバイオリジカルクラスターの形成にアプローチするという全体像を私なりに捉えることができました。自分の研究に一見直結しないようなテーマであっても、新たな視点を見出したり、意外なところにヒントがあったりして、とても刺激的でした。発表後のディスカッションだけでは物足りず、夕食や懇親会でも議論は尽きることなく続いていました。

学部4年生の私は研究室に所属してまだ日も浅く、こうした会議は初めての体験でした。研究を語るときの目に宿る輝きや、果てしない科学の探求に情熱を持って取り組む姿を目の当たりにし、研究者とは、自らの力で一步ずつ真実を追求し続ける存在であると強く感じました。これからも、今回目にした皆さまの姿を胸に刻み、研究に励んでいきたいと気持ちを新たにしました。最後に、このような貴重な機会を提供してくださった領域の先生方に、心より御礼申し上げます。